

かわ

2024.10.1

vol.263 Contents

河川愛護街頭キャンペーン …… P1～P2

河川功労者表彰 …… P3～P4

世界水フォーラム …… P5～P6

ふくおか水辺の安全講座 …… P7

ダムのはたらきについて …… P8

ふくおかの身近な川といきものを知ろう
…… P9～P10

河川協会からのお知らせ

街頭広報キャンペーン

河川環境の保全と県民生活の中に占めている河川の重要性を啓発し、河川を安全に適切に利用、また、管理していく機運を高めるため、広く県民に向け、7月を河川愛護月間とし、各種事業を実施しています。この河川愛護事業の一環として、県内を福岡・北九州・筑豊・筑後の4つの地域に分け、街頭でちらし等の配布、懸垂幕・ポスターの掲示等、河川愛護意識の啓発活動を行っています。



	実施日	実施場所	配布物品
福岡ブロック	7月24日(水)	福岡市天神周辺	河川愛護月間チラシ うちわ ポケットティッシュ
北九州ブロック	7月19日(金)	北九州市小倉駅	ポケットティッシュ
筑豊ブロック	7月16日(火)	ゆめタウン飯塚	ポケットティッシュ
筑後ブロック	7月中	筑後川防災施設「くるめウス」	うちわ

※筑後ブロックは筑後川防災施設「くるめウス」に配布物品を設置

配布物品



河川愛護月間チラシ

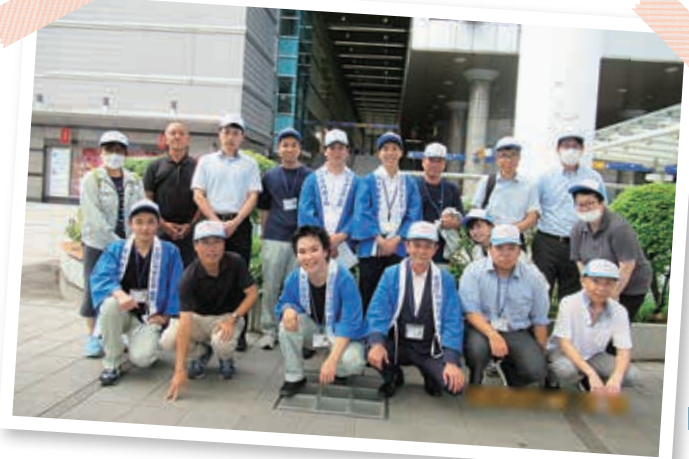
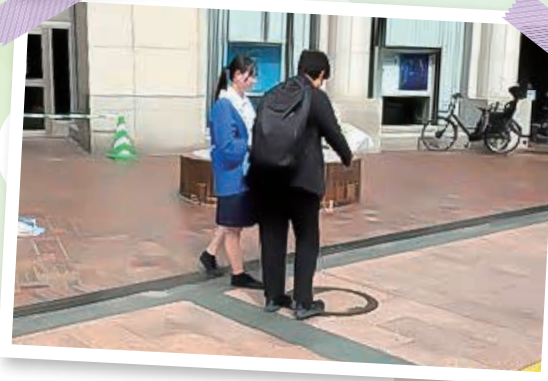


うちわ



ポケットティッシュ

活動の様子

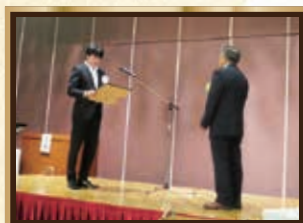


河川功労者表彰

令和6年7月29日(月)、福岡県河川協会通常総会の席上において、河川功労者の表彰式が行われました。

河川功労者とは、河川の機能保全、改善のために力を尽くし、その功績が顕著な個人並びに団体を、各市町村、各県土整備事務所からの推薦によって決定しています。

令和6年度の河川功労者は、福岡県河川協会長表彰が3名4団体、福岡県知事感謝状が1名9団体の方々でした。



福岡県知事表彰

◆薬王寺川を守る会 様
(古賀市)
対象河川:薬王寺川

◆福重校区室見川を守る会 様
(福岡市)
対象河川:室見川

◆クリーンupうみ川実行委員会 様
(志免町)
対象河川:宇美川

◆菊池 昭男 様
(久留米市)
対象河川:田手川

◆特定非営利活動法人しらかわの会 様
(大牟田市)
対象河川:堂面川

◆中辺春河川を守る会 様
(八女市)
対象河川:辺春川

◆辺春川を守る会 様
(八女市)
対象河川:辺春川

◆沖田地区金山川を守る会 様
(北九州市)
対象河川:金山川

◆金山川の自然を守る会 様
(北九州市)
対象河川:金山川

◆龍王・山・里・川の会 様
(飯塚市)
対象河川:建花寺川

福岡県河川協会長表彰

○個人

◆弓削 辰矢 様
(久留米市)
対象河川:筑後川

◆吉開 廣實 様
(大川市)
対象河川:筑後川

◆三角 文昭 様
(赤村)
対象河川:今川

○団体

◆原田川ホタルの里の会 様
(北九州市)
対象河川:原田川

◆香月・黒川ほたるを守る会 様
(北九州市)
対象河川:黒川

◆高槻ほたるの会 様
(北九州市)
対象河川:槻田川

◆小熊野川を美しくする会 様
(北九州市)
対象河川:小熊野川

遠賀川から世界へ

～第10回世界水フォーラムへの参加～

遠賀川流域子ども水フォーラム



参加メンバーでの集合写真



遠賀川水辺館での活動の様子

令和6年5月20日～25日、インドネシア・バリ島で開催された第10回世界水フォーラムに、幼少期に遠賀川水辺館で活動していた大学生ら5名が参加し、遠賀川の魅力を世界に発信してきました。遠賀川水辺館で育った若者が同フォーラムに参加するのは、今回で6回目となります。

遠賀川水辺館は、平成16年に遠賀川の地域防災施設として直方市に開館し、平常時は子ども達向けの河川環境学習の場として、直方川づくり交流会がビオトープでの生き物調べやカヌー体験等の活動を実施してきました。今回参加したメンバーも水辺館での様々な活動を通して、川の生き物や環境に興味を持ち、その後も研究や発表活動を続けてきたことから、今回世界の舞台に挑戦することとなりました。今回参加したメンバーは当時からお互いを認識していた関係でもあったため、事前の打合せや発表資料作成等については、お互いが協力してスムーズに進められました。

世界水フォーラムは、3年に一度、世界中の水に関する関係者が一堂に集まり、地球上の水と衛生に関わる様々な問題を解決するための議論や展示などが行われる国際会議で、展示会場では水をテーマにしたパネル展示やプレゼンテーションも行われます。今年は、インドネシア・バリ島(ヌサドゥアコンベンションセンター)で第10回目が開催され、令和6年5月20日～25日の期間中に、160か国からのべ64,000人が参加しました。

遠賀川メンバーは、大会2日目の5月21日に日本パビリオンのブースでプレゼンテーションを行いました。発表では、各々がこれまで水辺館でどのような活動をしてきたか、また今後その経験をどのように活かしていきたいかを英語で発表するとともに、遠賀川の魅力や水辺館の継続的な人材育成についても紹介しました。

メンバーの一人は、小学生の時に水辺館の生き物調査に参加して、「タイコウチ」という水生昆虫に魅了されたのをきっかけに「タイコウチ博士」と呼ばれる程のめり込み、中学、高校でも昆虫



展示会場の様子



プレゼンテーション状況

の研究を続けていく中で、河川環境の重要性に気付いたことで、今度は自分が次世代に環境教育として伝えていきたいと話しました。

これは他のメンバーも発表で言及していましたが、自分たちは遠賀川、特に水辺館で育ててもらったという思いが強く、それを今度は自分たちが次の世代を育てる側に回って、人づくりを繋げていきたいということが共通の思いとして有り、実際にカヌーのインストラクターの資格を取得して指導にあたっているメンバーもいます。

発表の最後には、流域治水の推進に多世代の参画が必要で、特に若い世代の継続した人づくりが重要であることを伝え、流域治水を表す英語の一部である「by all」という言葉で締めくくりました。

今回の発表にあたっては、事前に予告のチラシを配布していたこと、また数少ない若い世代の発表ということもあって、様々な国の多くの方々に聞いてもらうことができました。英語での発表でありましたが、海外でも通じる「オタク」という言葉を用いて自分たちを紹介するなど、相手に伝わることを意識してプレゼンテーションを行いました。その結果として遠賀川での活動への数多くの質問や水辺館の継続的な人材育成への驚きと賛辞をもらうなど、今回の発表で伝えなかった遠賀川の魅力が十分に伝わりました。

帰国後の令和6年7月5日(金)には、遠賀川水辺館で今回の「第10回世界水フォーラム」への参加報告会が行われ、約50名の方々が参加しました。報告会では、今回のフォーラムでの発表の様子や発表を受けての会場の反応などを報告するとともに、今回参加した5名の若者が遠賀川での活動やこれからの取り組みについてを本番と同様に英語で堂々と発表しました。会場からは、発表者への称賛の声とともに、多くの質問がなされ、最後には、参加した若者がこの経験を得て今後どう活かしていきたいかなどの抱負も話すなど、素晴らしい報告会となりました。

今回の世界水フォーラムへの参加で得られたことをメンバーに聞いたところ、「英語で遠賀川の魅力を伝えることができ、様々な国の人と交流できたことが自信になった」、「他国のユース世代の活動内容や現状を知ることができた」などと答えてくれました。

今回参加したメンバーには、世界水フォーラムでの様々な経験や刺激を受けたことで、今後益々活動の幅を広げ、それを次の世代にしっかり受け継いでいくことを期待したいと思います。



プレゼンテーション資料



会場からの質問



発表後の交流の様子



報告会の様子



報告会の様子

「ふくおか水辺の安全講座」開催

川は人々の生活に使われたり、心に安らぎを与えたりする場である一方で、急激な増水や流れが激しい場所など様々な危険が潜んでいます。

福岡県では、平成20年に兵庫県都賀川で発生した水難事故を受けて、小中学生を対象とした「ふくおか水辺の安全講座」を平成21年度から毎年開催しており、今年度は6箇所で開催いたしました。

●開催日と会場

7月下旬から8月上旬にかけて、下記6箇所で開催しました。

	開催日	河川名	市町村名	施設
1	7月25日(木)	釣川	宗像市	宗像市玄海B&G海洋センター
2	7月26日(金)	大根川	古賀市	古賀市古賀北区公民館
3	8月2日(金)	那珂川	福岡市	福岡市立横手中学校
4	8月3日(土)	長野川	糸島市	糸島市川付公民館
5	8月5日(月)	矢部川	八女市	八女市立黒木西小学校
6	8月6日(火)	紫川	北九州市	北九州市立今町小学校

●開催状況

講座では、ライフジャケットやヘルメットを着用し、実際に川でロープを使ったレスキュー方法などを体験したり、川の生き物調査やカヌー乗りを体験したりしながら、川で安全に遊ぶ方法を学びました。

また、屋内では動画を観て、川の危険箇所を学習しました。

●開催講座紹介



レスキューロープを体験しました。



浮いて川の流れを体験しました。
(浮いて待つ)



動画を観て川の危険箇所を学習しました



カヌーを体験しました。



いろいろな生き物を捕まえ観察しました。



ダムのはたらきについて 洪水調節

ダムには河川環境の保全や少雨時の水の補給など様々な役割があります。そのなかで今回は大雨が降った際のダムのはたらき(洪水調節)について紹介します。

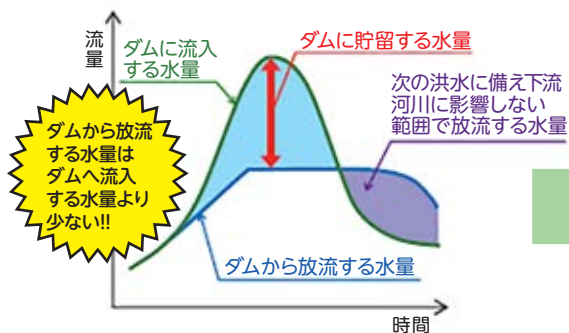
● 水害を軽減する(洪水調節)

大雨が降るとダムに入ってくる水の一部を貯め込み、川に放流する水量を減らすことで、下流河川の水位上昇を抑え、洪水による被害を防止・軽減します。このことを「洪水調節」と言います。降雨が続き川の増水が想定される場合は警報車やサイレン・スピーカー放送などでお知らせします。



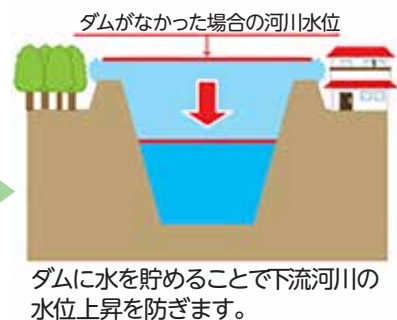
ダムは洪水時に上流から流れ込む大量の水を一時的に貯めることで、下流河川の水位上昇を防ぎ、洪水による被害を軽減・防止します。

洪水時におけるダムでの貯留イメージ



その効果は・・・

ダムに貯留することによる下流河川への効果イメージ



● 緊急放流

異常な大雨によってダムの最大限貯めることができる量を超えた水が流れ込むことがあります。

洪水調節をおこなっている時に、ダムへの流入が増え続けるとダムの水位も上昇し続けます。ダムで最大限貯留することができる水位を超えることが予測された場合には、ダムに入ってくる水量と同程度をダムから放流することになります。これを「緊急放流」といいます。

緊急放流をおこなうと川の水位が高くなることがあるため、放流前にホームページ等でお知らせします。

緊急放流時のイメージ



ふくおかの身近な川と

ひびの
日比野
ゆうすけ
友亮

いきものを知ろう! vol.1

ふくおかの川は、魚はいま

今回からコラムを担当することになった北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)の日比野友亮です。九州オープンユニバーシティの鹿野雄一さんとともに隔回で担当します。

私は淡水魚の研究者ではありませんし、魚を増やす・減らさないための保全の研究者でもありません。私が専門とする分野は一貫して分類学です。地球上に暮らす生物の種の多様性を理解し、名前を整理していくという学問で、これまでに30種以上の種に対して新しい名前を与えてきました。このほとんどは海産のウナギ目というグループで、今後も新しい種の発表を控えています。

一方で、趣味人としては根っからの淡水魚趣味で、採集、飼育、喫食をつづけてきました。生まれ育ったまちには海がなく、身近な魚と言えばフナやコイ、メダカ、ドジョウ、カワバタモロコといった淡水魚でした。福岡に赴任したあとも、九州中を駆け回って、各地の水辺を見てきました。食べるのが好きなので、淡水魚介類に関する食文化の収集も行っています。また、九州大学に赴任したことがきっかけとなり、歴史的な淡水魚類標本群、そしてその当時の豊かな水辺環境の情報に触れる機会も得ました。

これまで、淡水や汽水域に暮らす魚たちの保全研究を進めてこられた専門の方々による連載だけでなく、連載の依頼を受けるか非常に悩みましたが、現状の九州の水辺を知る人間の一人として、みなさんの理解を深められるような話題を提供していきたいと思っています。

さて、福岡の水辺について、みなさんはどのような印象をお持ちでしょうか。福岡では他県と同様に

工業地帯では工業廃水汚染があり、生活排水についても合成洗剤による汚染が問題化しましたが、このような水質汚濁の問題はこれまで、およそ50年をかけて次第に解決されてきました。少なくとも、県内の主要河川については悪臭が鼻につくことはなくなり、水そのものの見た目、透明度も向上しています。こうした変化は我々に水辺の環境が改善してきたことを実感させ、水辺に対する嫌悪感を減らしてもきたことでしょう。一方で、水の中に暮らす生物は減るばかりです。2014年版の福岡県レッドリストでは海産魚を除いて全64種がリストアップされ、このうち36種が絶滅危惧種(絶滅危惧I類とII類)です。淡水・汽水域の魚類について見てみると、ヤリタナゴやモツゴなど、かつては県内各地にごく当たり前に、しかも大量にいた種が何種も含まれていることが分かります。現在は改訂版のレッドリストの作成作業が進められていますが、状況の悪化した種がかなりの部分を占めています。今のレッドリストは、もはや普通種でいられるような種などないという、危機的な状況を警鐘しています。

河川を含む水辺の環境としての良さは、水質だけで測れるものではありません。彼らの減少の根本的要因は言うまでもなく様々な開発行為です。川を垂直に護岸すればエコトーン(水辺と陸地の移行帯)が消え、多くの生物の産卵・生育の場を失います。ダムを作れば山からの土砂の供給が絶たれ、川原から石が消え、海辺の砂浜は退縮します。日本には氾濫原と呼ばれる湿ったり乾いたりを繰り返すような環境を利用して暮らす生物がたくさんいて、そのうちのいくらかは田んぼや水路を利用しています。田を乾田化させ、水路をコンクリートで護岸すれ

ば、そこにいる生物が減るのは当たり前です。ただ、ここに挙げたような事例はすべて、我々の暮らしやすさを実現するために行われてきたもので、今の暮らしや、いのちを支えるインフラも含まれています。人間が楽を求める欲に際限はありませんが、我々は生きているものを食べるという営みなしでは生きていけません。ある程度の楽をしながら、生き物も共存できる社会を作っていくことは、我々自身の総合的な暮らしやすさを長期的に守ることもつながるということを理解し、常にその折り合いを探っていく必要があるでしょう。気候変動に伴う気象の激甚化が進む中で、どのような環境、どのような社会を受け入れていくのか、気になっています。

とはいえ福岡を含む北部九州の水辺にはすばらしい魅力が残されていることもまた事実です。福岡には玄界灘(博多湾・筑前海・響灘)、周防灘(豊前海)、有明海と三つの異なる性質をもった海があり、それぞれに流れ込む河川もまた、異なる特徴を有しています。博多湾エリアでは低地のほとんどが市街化され、のどかな水田地帯ではなくなりましたが、河川にはハカタスジシマドジョウのような固有性の高い魚が生き残っています。遠賀川の流域では広い水田地帯とゆたかな水量がタナゴ類の密度を支えています。かつて、瀬戸内海がまだ海ではなかった時代の記憶を引き継ぐ北九州から豊前にはイシドジョウや、ギギ、サツキマス(アマゴ)などがおり、県下全域に分布するような種であっても、遺伝的にはむしろ瀬戸内海沿岸側との共通点をもつものもいます。筑後川・矢部川などがひらいた筑紫平野には複雑な水路網が築かれ、カゼトゲタナゴやアリアケギバチ、あるいはエツやアリアケヒメシラウオのように海を介して生活する固有性の高い種がいます。地域で暮らす当事者の方にとっては当然の風景かもしれませんが、これだけの魚が現在でも見られるのはたいへんな贅沢です。

次回からは、福岡の魅力ある魚たちを順を追って紹介していく予定です。



礫溜まりから採集されたイシドジョウ



カゼトゲタナゴのオス(上)とメス(下)



流し網で漁獲されたばかりのエツ



採集直後のアリアケヒメシラウオ(上)と採集環境(下)

ひびのゆうすけ
日比野 友亮
— YUSUKE HIBINO —

●北九州市立自然史・歴史博物館 学芸員 ●九州大学総合研究博物館 協力研究員 ●日本魚類学会 編集委員
主な著書／ ■魚類 福岡県の希少野生生物—福岡県レッドデータブック2024 (予定)
■緑の火山島 口永良部島の魚類図鑑(2017) (共編)

河川協会からのお知らせ

令和6年度 福岡県河川協会通常総会

福岡県河川協会通常総会が、7月29日(月)福岡市内の福岡リーセントホテルにおいて開催されました。市町村長等79名の出席のもと令和6年度予算案等について審議が行われ、いずれも原案どおり承認されました。

また、福岡県では「平成29年7月九州北部豪雨」以降、度重なる豪雨災害に見舞われ、昨年も甚大な被害が発生しているため、国等への要望決議案が採択され、後日、国土交通省及び地元選出国會議員の方々に陳情・要望することとなりました。

その後、河川功労者の表彰式が行われ、最後に福岡県県土整備部河川管理課長から河川事業について説明が行われました。



「第21回 ふくおか水もり自慢!」のおしらせ

平成16年から毎年開催しており、今年度で21回目を迎えます。

今年度は、令和6年12月に福岡地区で開催予定です!

皆様のご参加をお待ちしております!

詳細な内容が決まりましたら、福岡県県土整備部河川整備課のHPに掲載します。

(URL: <http://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4800724/>)

第20回

ふくおか川の大掃除を実施します! ～県民参加による河川美化活動～



毎年10月をクリーンリバー推進期間としており、第4日曜日は統一活動日として、県内で河川の一斉清掃を呼びかけ、第20回ふくおか川の大掃除を実施します。

日 時 令和6年10月27日(日曜日)

実施場所 調整中

お問合せ 参加を希望される方は、福岡県県土整備部河川管理課管理係までお問合せください。

TEL:092-643-3666 FAX:092-643-3669
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kawa.html>



編集
後記

オリンピック・パラリンピックに沸いた暑い夏が終わり、ようやく秋の気配が感じられるようになりました。実りの秋、食欲の秋、芸術の秋を満喫したいものです。個人的には秋刀魚の豊漁を期待しています。

(植村・北川)

◆ STAFF

発行・編集 福岡県河川協会(福岡県県土整備部河川管理課内)
〒812-8577 福岡市博多区東公園7-7
TEL:092-633-2826(直通)
FAX:092-643-3669

企 画 アロー印刷株式会社

福岡県河川協会ホームページ

<http://www.fukuoka-pref-kasen.jp/kasenkyokai/>

